

名護市
議会議員

東恩納たくま

発行：東恩納たくま 名護市字瀬高48 電話・FAX：0980-55-8587
携帯：090-9786-9471 ホームページ：www.takumahigashionna.jimdo.com

議会報告第13号

いのち・くらし おびやかす基地



▲安部区に墜落したオスプレイ

新しい年が始まりました。今年は特に重い年明けでした。十二月十三日にオスプレイが私たちの生活圏である安部の海岸に墜落。機体は大破。恐れていたことが現実になりました。墜落現場には住民どころか私たちの代表である市長すら近づけません。米軍が一度墜落現場から撤収した後、機体の残骸が多数放置され、安部地区有志や他区からのボランティアがその改修作業を行いました。そして墜落原因がわからないまま、オスプレイは事故からわずか六日後には飛行再開。年明け六日には事故の原因

と推定されている空中空輸も再開されました。この間日本政府はただただ米軍からの情報を垂れ流し、米軍からの要請にYES!と言いつつ、日本は本場に独立国家なのでしょいか? 「市長は名護市全域の市民を守る責任がある」と現場で悔しさをにじませていた稲嶺名護市長とは真逆で、今の日本政府に私たち住民を守る気持ちはみじんも感じられません。昨年の四月に米軍族による女性強姦致死事件が起きたばかりです。米軍は私たちを守るどころか、私たちの命とくらしを日々おびやかしています。「良き隣人」などというのは茶番ではありません。名護市議会では事故後直ちにオスプレイの配置撤回と辺野古新基地建設中止・撤回を求める決議を賛成多数で可決しました。野党議員はしかし「新基地建設を容認している立場から、オスプレイの配置撤回には賛成できない」として、この決議に賛成しませんでした。事故が起こってもまだなお基地移設を容認し、日本政府と米軍にこびへつらう彼らに名護市民の代表である資格があるのでしょうか?。昨年十二月末にはまた、沖縄県の



▲大浦湾を仕切るフロート

最高裁での敗訴が確定し、年明けから大浦湾にあの忌まわしいフロートが再設置されました。海上とシユフブゲート前では機動隊と海保が抗議している市民を強引に排除・拘束しています。厳しい年が始まりましたが、こんなにも政府が強引なのは焦っているからです。少しでも工事を進め、名護市民が、沖縄県民があきらめるのを期待しているのです。しかし法治国家にあるまじき、独立国家にあるまじき政府の沖縄差別行為は、必ず行き詰まり、世界からの非難的となります。私たちは毅然として私たちの生命とくらしを守るために、辺野古新基地建設に反対していきます。今年も一致団結してチバラナヤサイ!

十二月議会 たくま一般質問

東恩納琢磨の2016年12月議会一般質問概要です。

質問① 世界ウチナンチュ大会について

市町村関連イベントとして名護市でもナグンチュ大会が開催されていますが、参加人数はどのように推移していますか。

市回答

海外からの参加者を対象とした名護各地区をめぐるバスツアーの参加者は百三十八名。(前回五十七名)。ナグンチュ歓迎交流会には海外参加者三百六十一名(前回百九名)、国内県内からの参加者三百三十三名(前回百二名)。参加者は増えている。

たくま

今回、ナグンチュ大会を終えてどのような反省点がありましたか。また、今後に向けてどのような課題がありましたか。

市回答

取り組みが遅かった。一年前より実行委員会を立ち上げ、市内関係者と事業計画や運営についてのきめ細やかに計画するべきだったと考える。

たくま

前回大会の反省点がきちんとした形で引き継ぎがされていなかったことが問題ではないですか。五年後に向けて、今回の反省点を含めた報告書を作る必要があるのでは。参加したボランティアスタッフを含めた関係者からも意見を聞くべきでは。

市回答

次回大会に生かせるように資料を作る。ボランティアや各団体とも話をする機会を作りたい。

たくま

名護市民から「世界ウチナンチュの日」を制

定するように陳情が出され、名護市議会で採択されました。大会ファイナルとして十月三十日を世界ウチナンチュの日とすると言われました。名護市として来年の「世界ウチナンチュの日」をどのようにアピールし、どのような企画を考えていますか。

市回答

来年十月三十日をウチナンチュの日とする千二コメントの建立。名護国際交流協会とタイアップして共同イベントの開催を検討している。

質問② 堆肥センターの進捗状況について

指定管理者が決定した後、堆肥センターの稼働は何年何月を予定していますか。

市回答

年明けから試験運用を、全面運用開始は一月下旬ごろを予定している。

たくま

農家への堆肥の引き渡し額と市からの助成額はどのように設定していますか。また、下水道汚泥やその他の処理料の料金設定を伺います。

市回答

牛糞、豚糞、鶏糞の割合を変えた三種類の堆肥を、バラで五千円から九千円、袋詰めを二百八十円から五百円で販売すると聞いている。市からはこれまで通り半額を補助する。

たくま

下水道汚泥やその他の処理料は六千円となっていますが、妥当ですか。業者への負担が大きくなり、堆肥の質の低下を招きませんか。

市回答

旧堆肥センターで受け入れていた際の価格を引き継いだ。選定業者からもこの値段で提案をいただいている。施設運営は堆肥を売って得られる収

益で行っていただく。

質問③ 瀬高保育所の運営について

南城市と八重瀬町が、それぞれの自治体に唯一残っている公立保育所を二〇一七年度に民間運営に移行する方針を発表しました。しかし、保護者や他の保育園関係者からは存続を求め声が上がっています。保育園の民営化が進む中、逆に公立保育所は、地域全体の保育の質の向上を図る牽引役として、より重要な役割を帯びることも考えられています。名護市として、唯一残っている瀬高保育所を公立保育所として存続させ、市がこれからも保育の現場と直接つながりながら、他の認可保育園の質の向上を指導する役割を果たして行くことが求められていると考えます。

市回答

瀬高保育所に関しては、今後も地域の人口増が見込まれないため民営化は厳しいものと考ええる。質の高い保育を実施するために、瀬高保育所と久志保育所を一元化し、公立の幼保連携認定子供園を設置する方向で検討している。

たくま

市立保育所の価値について、きちんとした評価をしていないのでは？また、いつ幼保連携認定子供園になる予定ですか。

市回答

瀬高保育所に関してはこれまでは民営化の方針であったが、この度新たな制度のもとに整備していく。地域にとって必要な形だと思ふ。細かな内容についてはこれから詰めていく。市内においては市立幼稚園が認定子供園として運営されるのは初めてであるから、今後一見以北地域の例が名護市全体の保育教育に与える影響が大きくなることを。

これまで公立保育所が果たしてきた役割はあるが、公営、民営の差はない。小学校とも連携し、研修を図ることに關しては公としての役割がある。新制度がいつから始められるかは未定。

たくま

これまで名護市では民営化を図るということで十年以上、保育士の採用を止めてきませんでした。しかし久志では今後も公立が残るということであるのなら、今現在働いている臨時の保育士の待遇について、改善が必要ではないですか。任期付き職員という待遇も充てることができるとは？

市回答

今後は幼保一体となるので、保育士資格・幼稚園教諭の資格が必要。人材確保を考えている。現場における業務においては各研修に参加いただく。

副市長回答

現在瀬高保育所で頑張つて下さっている、臨時の職員、なかには長くお勤め下さっている方々がおられることを承知している。この人たちの力を生かす方法をしっかりと考えていきたい。名護市の今後の保育行政に必要な力だと認識している。

たくま

これまで貢献してきた方々の努力に報いるように取り組んでいただきたい。次につながる後輩もやるきが出て、相乗効果が生まれるように、またそつという保育環境の中で、子供たちを育てていけたり、子供たちも生き生きしていくのではないかなと思う。しっかりと取り組んでいただきたい。

質問④ 水産業振興について

近年、名護市の水産物水揚げ量はどのように推移していますか、特に天然ウニやサザエが減少傾向にあると漁民から伺っていますが、市としてどのような対応、対策を行っていますか。

市回答

漁獲量の減少が見られる。全国的なソディカ漁の不漁、冬季異常気象によるもずくの不漁が要因と思われる。ウニ資源の減少は、乱獲・餌資源の減少が要因と思われる。禁漁、稚ウニの放流を行っている。

サザエは漁獲量は増加しているが、漁協による漁場監視、密漁防止を支援していく。

質問⑤ やんばる風景花街道について

やんばる風景花街道に対して、市として今後どのような支援を考えていますか。

市回答

市としては、今後も久志支部区長会とわんさが大浦パークが主催しているフラワーフェスタについて助成金等の支援、各地域の美化作業に対しての花の苗の提供、国道・県道の清掃作業での支援を行う予定。

質問⑥ 天仁屋小学校跡地について

名護学院との事業計画を進めるために調整を行っているとのことでしたが、その後進展はありましたか。

市回答

名護学院を跡地利用者として事業計画や収支計画の詳細について名護学院と名護市の間で調整を行っている。

その中で、当初計画で利用を予定していた校舎のうち旧耐震基準にかかる校舎について改修に多額の費用が必要となることから、改修ではなく事業者側が建物を新築することが検討されている。十一月の現状確認でその変更については天仁屋区、底仁屋区の両区長の理解を得た。

今後、名護学院より変更後の事業計画書を提出していただき、庁議において跡地利用者の可否を判断する。跡地利用にあたっては議会承認も必要。

質問⑦ スクールバスの運用について

「ミニユニティーバスと併用したスクールバスの運用について、全庁的に協議をされていると思いますが、その後の進展を伺います。

市回答

現在本市では二見以北地域で緑風学園生徒を対象としたスクールバス、屋我地地域では屋我地ひるぎ学園のスクールバス併買物支援バスを運行している。九月議会で東恩納議員より質問のあったスクールバスとミニユニティーバスの併用については道路運送法との関係、運行時間、コスト面その実現の可能性について現在関係課で調整を図っているところである。今後スクールバスやスクールバス兼買物支援バスだけではなく、赤字路線となっている既存のバス路線の維持や公共交通の空白地域の解消課題もあることから、既存の民間バス路線も含めた交通政策の方向性を明確化する必要があると考えている。

たくま協力願い

スクールバスのミニユニティーバスへの運用に關しては市民からも積極的に意見を出す必要があると思います。アンケートなどを行う際にはご協力をください。

世界ウチナンチユ大浦湾を見学

昨年十月第六回世界ウチナンチユ大会が開かれました。私はこの機会に一人でも多くの海外ウチナンチユの方々に大浦湾の素晴らしさを知ってもらいたいと、名護市に働きかけ、市が関連イベントとして企画していた久志地域バスツアーに大浦湾のアオサンゴをグラスボートで見ると見る時間を盛り込んでもらいました。アオサンゴツアーは大好評で五十名の定員がすぐにいっぱいとなりました。当日は快晴！透明度も抜群で、サンゴ、魚がばっちり見えました。皆さん名護に縁のある方々でしたが、一応に「こんなにきれいだとは知らなかった！すばらしい！」と感嘆の声を上げていました。この海を埋め立てる新基地計画について話すと、みな「何かできることはあるか？」としきりに聞いていらっしやいました。この海のことをぜひそれぞれの国で伝えてほしいとお願いました。



▲大浦湾のアオサンゴをグラスボートから見る海外からの参加者
案内人 東恩納琢磨

IUCN が新たな決議

昨年九月一日から五日まで、ハワイで開かれたIUCN世界自然保護連合の四年に一度の総会に参加してきました。今回は稲嶺進名護市長も参加し、新基地建設が環境にどういった影響を及ぼすかを多くの人に知ってもらう機会となりました。IUCNでは過去二〇〇〇年、二〇〇四年、二〇〇八年と日本政府に対してジュゴンなどを保護する勧告が出されています。しかし日本政府はそれをずっと無視する形で、基地建設を強行しようとしています。

今回は「島嶼生態系への外来種の侵入経路管理の強化」の勧告が賛成多数で採択され、辺野古埋め立てに使われる予定の大量の土砂に混入する外来種（例えば、パイナップルやサトウキビなど）の作物に大きな被害をもたらすといわれるアルゼンチンアリや、刺されると疼痛（こうつう）などを起こすセアカゴケグモなどの侵入を防ぐ措置をとることを日本政府に求める勧告となりました。



▲ジュゴンを守れ、ハワイ住民とデモ行進する琢磨

この四度目の勧告を受け、沖縄に戻ってからは九月の市議会で「四度のIUCN勧告・決議を踏まえ、辺野古伸基地建設にかかわる日本政府が行った環境アセスの検証をIUCNに求める意見書」を可決させました。（意見書は別紙に）

今年の夏には、琉球奄美を世界自然遺産に登録するプロセスの一環として、IUCNの専門家が沖縄に視察に来ます。私たちは、その際にこれまでの四回の勧告についても、IUCNの専門家が検証を行うことを、沖縄県や環境団体、市民団体と協力し、求めています。地元から情報提供をきちんと行い、沖縄で行われている日本政府の環境破壊の実態について、世界に示してもらおうと考えています。

米軍基地建設で自然を壊しておいてその横を世界自然遺産にするなどという事が、世界で通用するのか、ジュゴンが生息する名護市東海岸を含めた世界自然遺産にすることを期待しています。



▲ イゲハワイ州知事と握手する琢磨